



# 地域国際化推進アドバイザー派遣 視察報告

多文化共生部多文化共生課

## はじめに

自治体国際化協会（クレア）多文化共生部多文化共生課では、自治体の地域国際化および多文化共生の取り組みを支援するため、「地域国際化推進アドバイザー派遣制度」を実施している。本制度は、自治体が抱える課題に対し、専門的な知見を有するアドバイザーを派遣し、講演や助言、ワークショップなどを通じて取り組みを支援するものである。

本稿では2026年2月19日に、群馬太田市で行われた地域国際化推進アドバイザーによる講演について報告する。

## 講演について

本講演は、群馬県公民館連合会東部地区公民館連絡協議会の主催により、群馬県太田市社会教育総合センターで開催された「第58回 群馬県公民館連合会東部ブロック公民館研究集会」の中で実施されたものである。講演は14時10分から15時40分までの90分間にわたり行われた。

講師は、地域国際化推進アドバイザーであり、東海大学国際学部国際学科非常勤講師を務める木下理仁（きのした よしひと）氏である。

当日は、群馬県内から60人を超える公民館関係者が参加した。

## 多文化共生と公民館の役割を考える

講演は「多文化共生と公民館の役割を考える～学習や交流の拠点として～」をテーマに、グループワークを交えて実施された。

冒頭、文化の違いに関するグループワークが行われた。外国人であるか



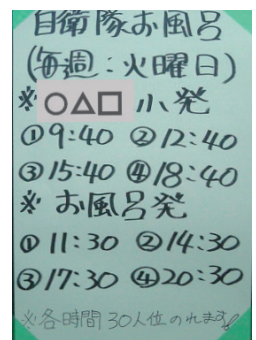
図1 講演の様子

否かではなく、文化の違いが行動の違いにつながるという視点が提示され、参加者はそれぞれの経験を踏まえながら理解を深めていた。

次に、「やさしい日本語」について、語源や変換ルール、日本語学習者にとっての難易度などが紹介された。併せて、避難所に貼り出された仮設浴場のポスター（図2）を題材に、「やさしい日本語」への書き換えを行うグループワークが実施された。

講師からは、大学生による回答例が紹介されるとともに、英語による案内が必ずしもすべての外国人にとって有効ではないことや、日本国内では一般的なピクトグラム（例：♨（温泉マーク））であっても文化の違いにより正しく理解されない場合があることが説明された。また、情報提供においては、言語だけでなく伝え方そのものを工夫する必要がある点についても強調された。

さらに、多文化共生に関する具体例として、川崎市における交流の取り組み、ヘイトスピーチに関する条例などが紹介された。その後、「『多文化共生』の社会をつくる9つの方法」を題材としたグループワークが行われ、各グループで優先順位について意見交換が行われた。グループごとに重視する観点は異なっていたが、参加者はそれぞれの立場から、現場で実践可能な取り組みについて検討していた。



（図2 仮設浴場のポスター）

「多文化共生」の社会をつくる9つの方法

- A いろいろな国のことばで対応できる「相談窓口」をつくる。
- B ことばや生活習慣の違いで困っている人を助けるボランティア活動をする。
- C 国際交流のイベントを開催する。



- D テレビ、ラジオ、インターネットなどを利用し、いろいろな国のことばで情報を流す。
- E 学校や地域で「国際理解教育」に力を入れる。
- F 身近なところにいる国籍や文化の違う人と友達になる。

など

まとめとして講師からは、公民館と地域の関わり方のヒントとして「ことばと文化のバリアフリー化」というキーワードが提示された。すでに公民館で、障がい者、高齢者、子育て世帯向けの事業が「バリアフリー」に配慮しつつ展開されているように、在留外国人に対しても同様の視点を持って配慮することが重要であるとされた。具体的には、一方通行の支援ではなく、共に活動することを通じて地域の特徴を活かしながら、楽しさや新たな気付き、学びにつながる取り組みを進めていくことの重要性が示された。

最後に講師からは、太田市における多文化共生に関するイベントの紹介があったほか、外国人住民が比較的多い大泉町や伊勢崎市を含む東毛地域（群馬県東部地域）で、公民館と市区町村国際交流協会が連携しながら取り組みを進めていくことの必要性について呼びかけがあった。

## 参加者の声

参加者は、行政における国際分野の業務経験者に限らず、公民館の現

場で活動する職員などが中心であったが、以下のような感想が寄せられ、講演は好評であった。

- ・1時間半は長いと思っていましたが、とても良かったです。参加型だったので聞くだけでなく考えることが出来ました。
- ・近年国内で外国人が急増している中で、公民館として多文化共生にかかわっていかねばならない時代になりつつあります。これからの公民館事業のあり方についてとても参考になりました。
- ・近所に外国籍の家庭があります。やはり、外国人だからといって距離をおかず、積極的にふれ合うことが大



(図3 太田市国際交流協会の取り組み)

切なのだと感じました。

- ・「やさしい日本語」の実際の単語は面白かったです。他にもあるのか考えてみたいと思いました。

## おわりに

出入国在留管理庁によると、2025年12月末の在留外国人数は約413万人と、総人口比3%を超え、過去最高を記録した。今後も外国人住民数は増加していくと見込まれており、外国人が地域社会で共にいきいきと暮らし働くことができるまちづくりや地域における相互理解の推進は、行政にとって喫緊の課題である。

## 地域国際化推進アドバイザー派遣制度について

自治体国際化協会では、2026年度も地域国際化推進アドバイザー派遣支援を実施している。

派遣対象団体は、自治体、地域国際化協会、市区町村国際交流協会である。

アドバイザーは、以下の分野に関する知識および実務経験を有する者であり、講演、助言、ワークショップなどを通じて地域における多文化共生推進の支援を行う。

- ① 多文化共生推進のための施策立案・実施
  - ② 国際協力・国際交流・国際理解教育
  - ③ 自治体などと NGO / NPO などとの連携・協働
- 派遣に係る経費のうち、アドバイザーの謝礼金および交通費については、クリアが負担する。

派遣分野としては、多文化共生のまちづくり、やさしい日本語、災害時の外国人支援、外国人児童支援、外国人相談窓口の運営など。

なおクリアホームページでは「地域国際化推進アドバイザー一覧」(分野別)を公開しており、大学教員、地域国際化協会職員、NPO関係者など、計70人が登録されている(2026年3月末時点)。

制度の詳細や申請方法などについては、以下のURLまたは二次元コードから確認されたい。

<https://www.clair.or.jp/j/multiculture/jjam/advisor.html>

